



株式会社ダイセル  
株主の皆様へ  
第150期

2015年4月1日から2016年3月31日まで





平素は格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。  
ダイセルグループの第150期（2015年度）の事業  
の概況につきまして、ご報告申し上げます。

2016年6月  
代表取締役社長

札場 操

## トップメッセージ

世界に誇れる「ベストソリューション」実現企業を目指して、中期計画「3D-II」のアクションプランを着実に遂行していきます。

### 2015年度の業績について

販売数量の増加やコストダウンの取り組み、外部環境の追い風などにより、過去最高益を更新しました。

2015年度の世界経済は、米国で景気回復が続き、欧州でも景気の緩やかな回復が続く一方、中国では景気の減速が見られました。日本経済は、一部に弱さが見られるものの、企業収益の改善など、景気の緩やかな回復基調が続きました。

このような環境の中、当社グループは、製品需要に対応した最適な生産体制の構築、さらには継続的なコストダウンを行うなど、引き続き企業基盤の強化に懸命に取り組んできました。

この結果、酢酸セルロースや自動車エアバッグ用インフレータなどの販売数量の増加、コストダウンの取り組みに加え、為替や原料価格など外部環境の追い風を受けたことなどにより、過去最高益を更新することができました。これ

◆売上高

4,499億円 

前年度比 1.4%増

(億円)



◆営業利益

643億円 

前年度比 25.4%増

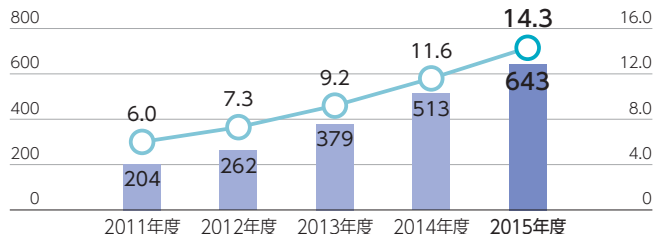
■(億円: 左軸)

◆営業利益率

14.3% 

前年度比 2.7ポイント増

○(%: 右軸)



◆経常利益

654億円 

前年度比 18.8%増

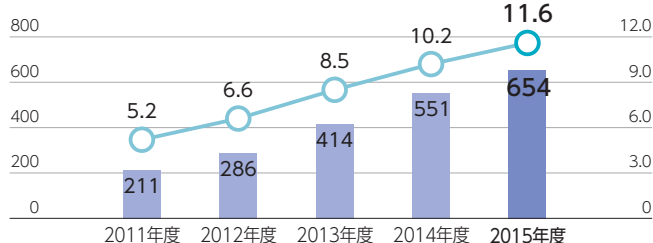
■(億円: 左軸)

◆ROA

11.6% 

前年度比 1.4ポイント増

○(%: 右軸)



◆親会社株主に帰属する当期純利益

403億円 

前年度比 29.0%増

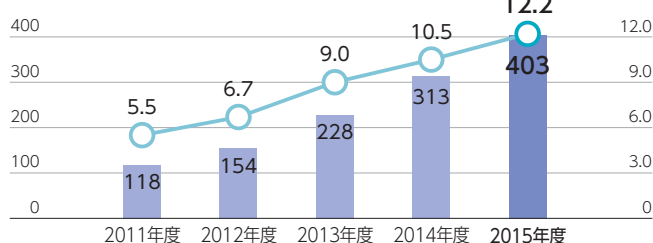
■(億円: 左軸)

◆ROE

12.2% 

前年度比 1.7ポイント増

○(%: 右軸)



は、当社グループが安定運転、品質確保のモノづくりを続けてきたことで、外部環境も味方にできた結果だと考えています。2015年度の売上高は4,498億78百万円(前年度比1.4%増)、営業利益は643億49百万円(同25.4%増)、経常利益は654億4百万円(同18.8%増)、親会社株主に帰属する当

期純利益は403億13百万円(同29.0%増)となりました。

2015年度の配当は、1株当たり前年度比で5円増配し、年間26円(期末13円)とさせていただきます。昨年11月に実施した約40億円の自己株式取得と合わせて、株主還元性向は32.5%となりました。

## 中期計画「3D-II」の進捗について

「コア事業のさらなる成長」「新規事業の創出」などの取り組みを着実に実行しています。

当社グループは、長期ビジョン「Grand Vision 2020」で掲げる、「世界に誇れる『ベストソリューション』実現企業」達成に向け、「3D Step-up Plan」として3年ごとに3回の中期計画を策定・遂行しています。

中期計画「3D-II」の2年目である2015年度は、最終年度（2016年度）の営業利益目標500億円を2014年度に続き達

成しました。しかしこの営業利益は、中期計画の前提に対する為替・原燃料価格の変動による影響も大きく、中期計画に掲げている具体的施策のすべてを実行できたものではないと考えています。

引き続き、たばこフィルター用トウの能力増強、エンジニアリングプラスチックのグローバルでの拡販、自動車エアバッグ用インフレーター事業の各拠点での増強などコア事業のさらなる成長に取り組むとともに、プロセス革新などによるコストダウン、メディカルヘルスケアやエレクトロニクス領域などでの新規事業の創出、徹底した安全・品質への取り組みなどを推進してまいります。



### 「3D-II」の重点テーマ

メーカーとしての基本である安全操業および製品安全・品質確保を大前提に、以下の5点を重点テーマとして取り組みます。

- ① コア事業のさらなる成長
- ② 新規事業の創出
- ③ グローバル展開
- ④ 生産基盤強化
- ⑤ コーポレート機能強化

## 2016年度の業績予想について

販売数量は増加するものの、為替が円高で推移することを想定しており、減収減益を予想しています。

今後の世界経済は、日本、米国、欧州では景気の緩やかな回復が期待される一方、中国をはじめとする新興国の景気減速が懸念されるなど、楽観できない状況が続くものと思われま

す。このような情勢下における当社グループの2016年度業績見通しは、たばこフィルター用トウや自動車エアバッグ用インフレータなどの販売数量の増加を見込んでいますが、為替が2015年度より円高で推移すると想定しており、売上高4,440億円（前年度比1.3%減）、営業利益610億円（同5.2%減）、経常利益635億円（同2.9%減）、親会社株主に帰属する当期純利益400億円（同0.8%減）を予想しています。

配当については、2015年度と同様、1株当たり年間26円を予定しています。また、2015年度に引き続き、2016年度も約40億円の自己株式の取得を決定しました。合わせて、1,500万株（消却前発行済株式総数に対する割合 4.11%）の自己株式消却も実施しました。

### 2016年度 通期業績見通し

（単位：億円）

	2015年度	2016年度	増減	増減率
売上高	4,499	<b>4,440</b>	<b>-59</b>	<b>-1.3%</b>
営業利益	643	<b>610</b>	<b>-33</b>	<b>-5.2%</b>
経常利益	654	<b>635</b>	<b>-19</b>	<b>-2.9%</b>
親会社株主に帰属する 当期純利益	403	<b>400</b>	<b>-3</b>	<b>-0.8%</b>

## 今後の取り組みについて

安全、品質を確保した「モノづくり」で社会にベストソリューションを提供し続けていきます。

当社グループは、モノづくりにこだわり、人々の暮らしの豊かさ向上に役立つソリューションを提供し続ける会社を目指していますが、これまでも申し上げておりますとおり、安全と品質の確保こそがモノづくりの基盤であり、私たちメーカーの最重要課題であるという考えはこれからも変わりません。

引き続き、生産基盤の強化、人材育成などに取り組むとともに、社会やお客様のニーズに対しベストソリューションを提供することで、持続的な成長を図ってまいります。

当社は2019年に創業100周年を迎えます。今後も社会と調和した会社や工場であり続けるために、「いのちの森づくり」に取り組むことを決定し、4月にはキックオフとなる植樹祭を播磨工場で実施しました（9ページをご参照ください）。今後、各拠点で植樹祭を実施し、地域の皆様とともに発展していくことを目指します。

株主の皆様におかれましては、今後とも、より一層のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

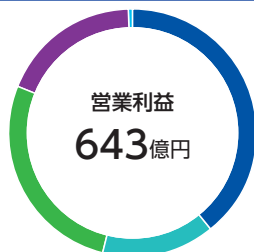
# セグメント別事業概況

セグメント別  
売上高構成比



セルロース事業部門	23.2%
有機合成事業部門	18.2%
合成樹脂事業部門	35.8%
火工品事業部門	21.3%
その他部門	1.5%

セグメント別  
営業利益構成比\*



セルロース事業部門	39.3%
有機合成事業部門	14.8%
合成樹脂事業部門	27.2%
火工品事業部門	18.4%
その他部門	0.3%

\* 営業利益構成比は、調整額を除いて算出しております。

主要製品および事業

## セルロース事業部門



### ■酢酸セルロース

液晶表示向けフィルム用途が減少しましたが、その他用途の増加などにより、売上高は増加しました。

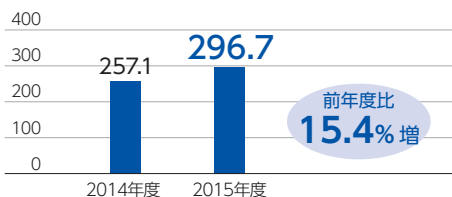
### ■たばこフィルター用トウ

世界的な需要減速や中国市場での在庫調整の影響を受けたものの、販売数量が微増となったことや為替の影響により、売上高は増加しました。

売上高(億円)



営業利益(億円)



## 有機合成事業部門



### ■酢酸

網干工場で2年に1度の定期修繕を実施したため販売数量が減少したことや、市況下落の影響により、売上高は減少しました。

### ■汎用品(酢酸誘導体および各種溶剤類など)

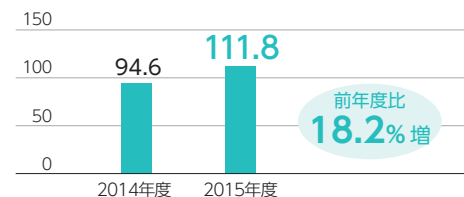
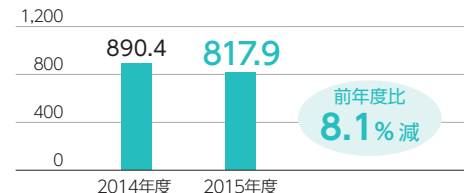
電子材料分野や塗料用途などへの販売数量が減少したことや、原油価格下落に伴う販売価格への影響により、売上高は減少しました。

### ■機能品(カプロラクトン誘導体、エポキシ化合物など)

一部製品の販売が低調に推移しましたが、為替の影響などにより、売上高は微増となりました。

### ■キラル分離事業(光学異性体分離カラムなど)

中国やインド向けなどのカラム販売が好調に推移したものの、スポットの大口受託契約が終了したことなどにより、売上高は減少しました。



## 合成樹脂事業部門



### ■エンジニアリングプラスチック事業 (ポリアセタール樹脂、PBT樹脂、液晶ポリマーなど)

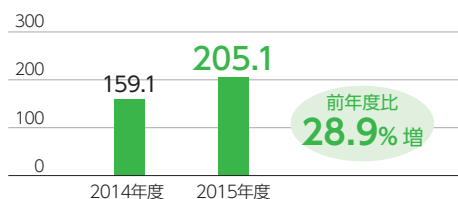
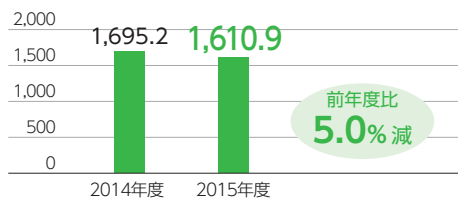
為替の影響がありましたが、中国経済の減速や日系自動車メーカーの生産の伸びの鈍化、電子デバイス製品の販売低調などにより、売上高は減少しました。

### ■樹脂コンパウンド事業 (ABS樹脂、エンブラアロイ樹脂など)

海外での販売増加や為替の影響があったものの、国内の販売が低調に推移したことなどにより、売上高は減少しました。

### ■樹脂加工事業 (シート、成形容器、フィルムなど)

シートの販売が減少し、売上高は減少しました。



## 火工品事業部門

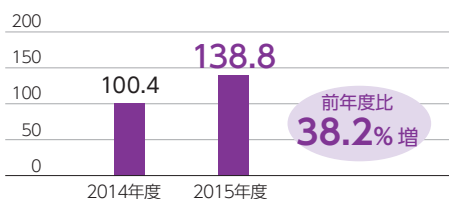
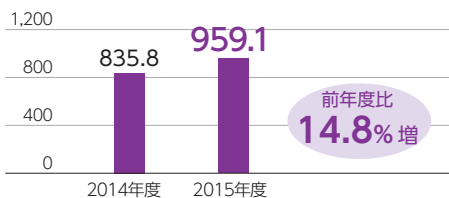


### ■自動車安全部品事業 (自動車エアバッグ用インフレーターなど)

インフレーター、イニシエータ (インフレータの着火部品) の販売数量増加や為替の影響などにより、売上高は増加しました。

### ■特機事業 (発射薬、ミサイル構成部品、航空機搭乗員緊急脱出装置関連製品など)

一部製品の防衛省による調達数量増加により、売上高は増加しました。



## その他部門

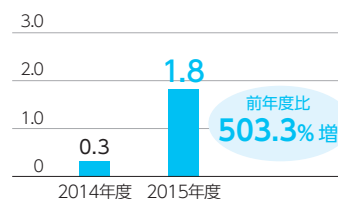
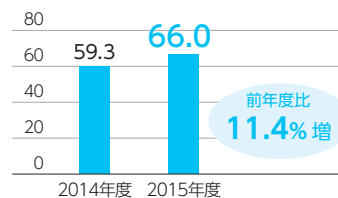


### ■メンブレン事業 (水処理用分離膜モジュールなど)

医療用分野向けが増加し、売上高は増加しました。

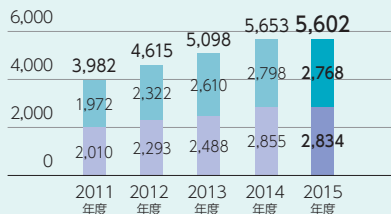
### ■その他の事業 (運輸倉庫業など)

売上高は増加しました。

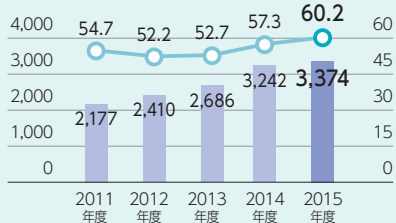


# 連結財務諸表

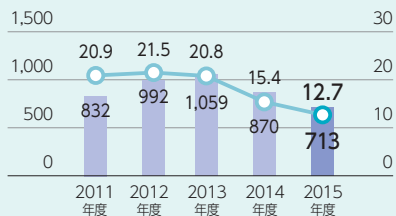
流動資産 (億円)  
固定資産 (億円)



自己資本 (億円: 左軸)  
自己資本比率 (%) (右軸)

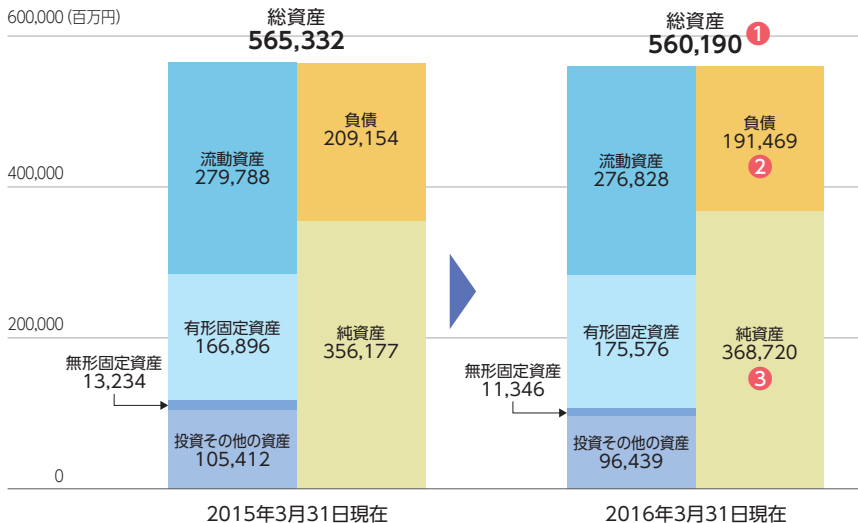


有利子負債 (億円: 左軸)  
総資産に対する有利子負債比率 (%) (右軸)



連結財務諸表 (単位: 百万円、百万円未満切り捨て)

■ 連結貸借対照表の概要



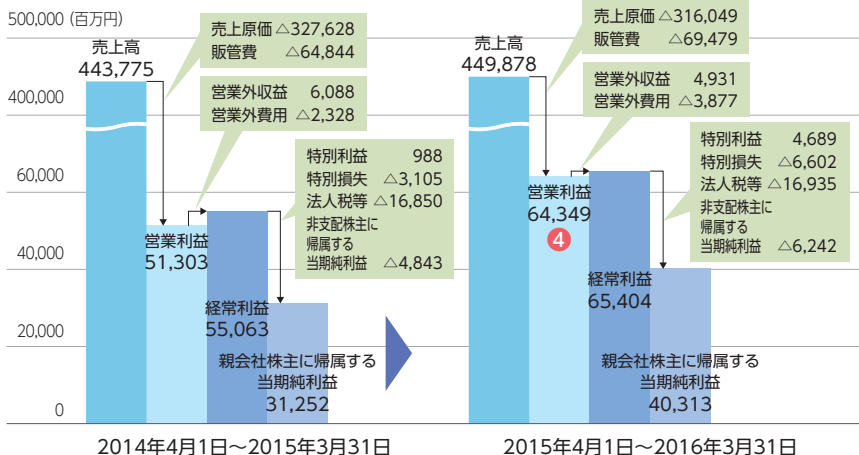
## POINT

- ① たな卸資産の減少および投資有価証券の時価評価額の減少等により、減少しました。
- ② 短期借入金および1年内返済予定の長期借入金の返済等により、減少しました。
- ③ 自己資本は3,374億24百万円となり、自己資本比率は60.2% (前期比2.9ポイント増)となりました。
- ④ 販売数量の増加や原料価格の低下、為替の影響などにより、25.4%増益となりました。

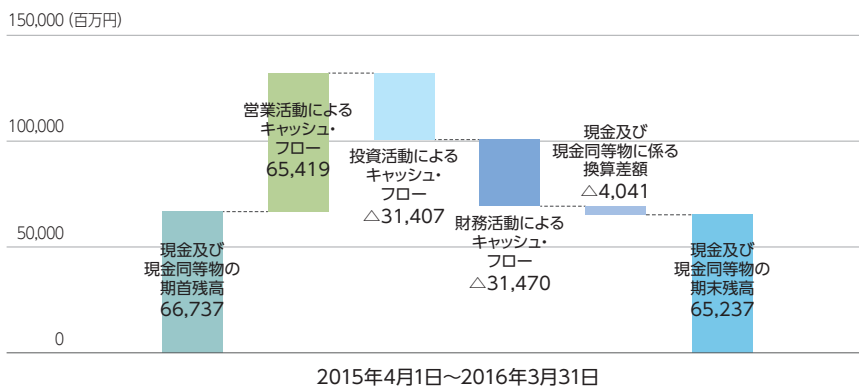
財務諸表につきましては、当社ホームページのIRライブラリーに詳細を掲載しています。  
アドレスは次のとおりです。 <http://www.daicel.com/ir/irlibrary.html>



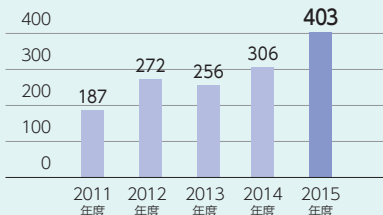
■ 連結損益計算書の概要



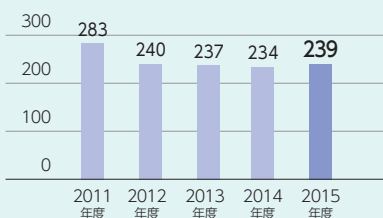
■ 連結キャッシュ・フロー計算書の概要



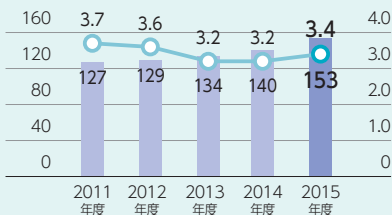
設備投資額 (億円)



減価償却費 (億円)



研究開発費 (億円: 左軸)  
売上高研究開発費比率 (%) (右軸)



## 特集 「いのちの森づくり」



当社グループは、世界に誇れる「ベストソリューション」実現企業を目指して、最良のソリューションを創造し、グローバルに提供することに取り組むとともに、ステークホルダーの皆様にとっての「ベストパートナー」になれるよう、様々な活動に取り組んでいます。

今回、「ベストパートナー」を目指して、新たに「いのちの森づくり」の取り組みを始めましたので、ご紹介いたします。

### 「いのちの森づくり」とは

横浜国立大学名誉教授であり、植物生態学者でもある宮脇昭先生が提唱・実践しておられる取り組みで、その土地本来の自然な森を再生することで、その地域に適した生態系を保全し、地震や洪水などの自然災害にも強く防災にも役立つ森づくりを推進しています。森づくりには、それぞれの地域の自然環境に即した植生（潜在自然植生）を中心に、多数の樹種を混ぜて植える独特の植樹方法（宮脇方式）が用いられ、多くの企業・団体がこの取り組みに参加することで、これまでに国内をはじめ、世界各地で4,000万本以上の木が植えられています。

### ダイセルグループの「いのちの森づくり」

宮脇方式は、混植という植え方だけでなく、地域の人々、中でも子どもたちと一緒に植樹することも特徴です。宮脇先生は、「いのちの森づくり」という行事を企画、運営する人も、教わりながら参加する



人も、それを通じて成長するとおっしゃっています。

種をまき、苗を育て、水をやり、木を育てて森にすることは、人材や事業を育て会社を発展させていくことにもつながります。また、自然の植生に近い多様な樹種を混植する手法は、グローバルに多様な人材が活躍する姿にも通じます。

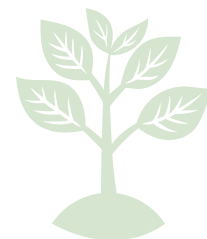
苗木が、植えた人の背丈を越え寿命を越えて伸びていくように、事業も、それを手がけた人間の器を越えて大きくなり、未来を切り拓いていく、そのような人づくりにつなげ、企業としてさらに成長する。そして何より、地域の皆様やお客様の「ベストパートナー」となる。まさしく、当社グループの目指す姿に通じます。

2019年に創業100周年を迎える当社グループは、「モノづくり」にこだわり、人々の暮らしの豊かさ向上に役立つソリューションを提供し続ける会社を目指しています。そのための「人」を育て、社会と調和した会社や工場であり続けるために、100周年記念行事の一環として「いのちの森づくり」に取り組むことを決定しました。

### 播磨工場でのキックオフ植樹祭の開催

2016年4月9日、播磨工場（兵庫県たつの市）において、ダイセルグループの「いのちの森づくり」のキックオフとなる植樹祭を開催しました。植樹祭には、播磨工場や他の事業場の社員をはじめ、そのご家族や近隣の皆様など約550名に参加していただき、常緑広葉樹を中心に36種計2,000本の苗を植えました。

今後も当社グループの各拠点で、社員とその家族、協力会社の皆様や地元の皆様と一緒に、「いのちの森づくり」に取り組んでいきます。



## 株主様向けの工場見学会を開催

2016年2月22日、当社は網干工場（兵庫県姫路市）にて株主様向けの工場見学会を初めて開催しました。

当日は、酢酸セルロース製造設備などのプラント群、ダイセル式生産革新により「モノづくり」の機能を集約した「統合生産センター（IPC）」、「モノづくり」を支えるすべての人材を育成する場である「教育訓練センター」などを見学していただき、その後の質疑応答では数多くのご質問をいただきました。

今後も当社への理解を一層深めていただくため、このような機会を設けていきたいと考えています。



## 自動車エアバッグ用インフレータの米州第2生産拠点稼働

当社が自動車エアバッグ用インフレータ事業強化の一環として米国アリゾナ州に設置を進めていた、米州で2箇所目となるインフレータ生産拠点Daicel Safety Systems America Arizona Inc. (DSSA AZ)が竣工し、稼働を開始しました。

DSSA AZはインフレータの着火部品を製造するグループ会社Special Devices Inc. (SDI)の隣接地にあり、SDIのマネジメントの人材・ノウハウの活用や生産技術におけるシナジー効果も発揮しています。

DSSA AZの稼働により、世界最大規模の北米市場と成長著しい中南米市場を合わせた米州市場のエアバッグ用インフレータの需要拡大に対応し、販売を拡大してまいります。



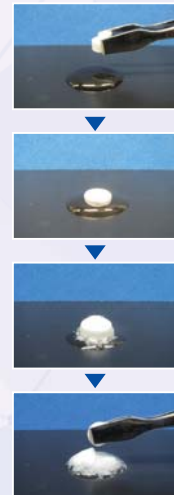
## 口腔内速崩壊性賦形剤「SWELWiCK (スウェルウィック)※」の販売開始

当社グループのダイセルファインケム株式会社は、サプリメントを口腔内崩壊錠 (OD錠) として製造するための速崩壊性賦形剤「SWELWiCK (スウェルウィック)」を2016年3月より販売開始しました。

OD錠は、水がなくても口の中で速やかに溶ける新しいタイプの錠剤で、医薬品ではすでに普及が進んでいます。

「SWELWiCK」は、錠剤の強度と速やかな崩壊を両立する性能が優れており、様々な機能性成分と組み合わせ、安全、便利で、飲みやすい、OD錠タイプのサプリメントの製造を可能とします。医薬用の「GRANFILLER-D (グランフィラーD)」も2014年に販売を開始しており、今後、これらの製品の販路を日本から世界に広げてまいります。

※「SWELWiCK」は当社とダイセルファインケムとの共同開発による製品です。



OD錠の崩壊の様子

## インドでラベル化標品事業を開始



当社はインドでジェネリック医薬品などの分析ニーズ拡大に対応し、ラベル化標品を合成・販売する新事業を開始しました。また、2016年2月にインドで同標品用のラボを新たに設置しました。

当社のキラルケミカル事業は、日本、米国、フランス、中国、インドに拠点を擁し、分析用カラムの販売にとどまらず、化合物の分取サービスや医薬品分析法の開発などのビジネスを展開しています。今回、ジェネリック医薬品の有効成分が既存薬と生物学的に同等と証明するために必要な分析で用いられるラベル化標品事業に進出することで、インド国内ばかりではなく、世界の製薬企業の医薬品開発にも貢献してまいります。

# 会社概要 (2016年3月31日現在)

商号：株式会社ダイセル  
 英文商号：Daicel Corporation  
 大阪本社：〒530-0011  
 大阪市北区大深町3-1(グランフロント大阪 タワーB)  
 Tel. 06-7639-7171  
 東京本社：〒108-8230  
 東京都港区港南2-18-1(JR品川イーストビル)  
 Tel. 03-6711-8111  
 設立：1919年9月8日  
 資本金：362億7,544万89円  
 従業員数：連結：10,709名 単独：2,153名  
 役員：

取締役		執行役員	
代表取締役社長	札幌 操*	社長執行役員	札幌 操
代表取締役	福田 眞澄*	専務執行役員	福田 眞澄
取締役	小河 義美*	専務執行役員	宮崎 鉄三
取締役	西村 久雄*	専務執行役員	宗 正幸
取締役	後藤 昇	常務執行役員	小河 義美
取締役	岡田 明重	常務執行役員	西村 久雄
取締役	近藤 忠夫	常務執行役員	井口 友二
取締役	下崎千代子	常務執行役員	安藤 隆彦
*執行役員兼務者		執行役員	白子 直秀
		執行役員	児島 秀景
		執行役員	Dieter Heckmann
		執行役員	野中 哲昌
		執行役員	阪本 聡
		執行役員	今中 久典
		執行役員	杉本幸太郎
		執行役員	榊 康裕
		執行役員	吉野 幸男
		執行役員	上野 貴史
		執行役員	辻 康雄
		執行役員	高部 昭久
		執行役員	八木 幹夫
		執行役員	川口 尚孝

監査役	
常勤監査役	木原 強
常勤監査役	榊田 宏安
監査役	岡本 罔衛
監査役	高野 利雄
監査役	市田 龍

# 株式情報 (2016年3月31日現在)

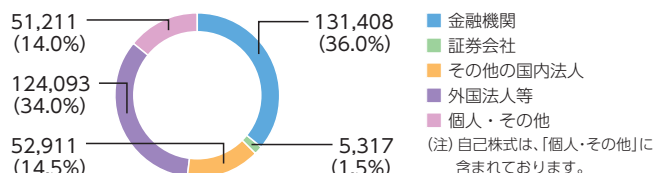
株式の状況：発行可能株式総数 1,450,000,000株  
 発行済株式総数 364,942,682株  
 株主数 17,489名

## 大株主：

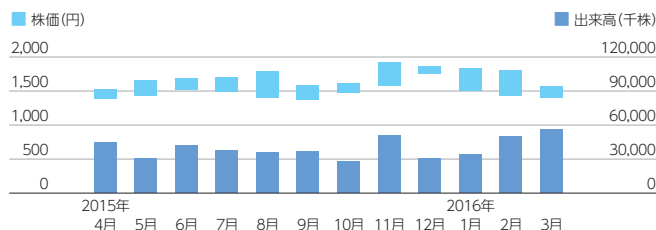
株主名	持株数 (千株)	出資比率 (%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	27,675	7.92
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	18,289	5.23
日本生命保険相互会社	17,403	4.98
富士フイルム株式会社	17,271	4.94
トヨタ自動車株式会社	15,000	4.29
株式会社三井住友銀行	7,096	2.03
株式会社三菱東京UFJ銀行	6,503	1.86
ダイセル持株会	5,295	1.51
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505225	5,010	1.43
CHASE MANHATTAN BANK GTS CLIENTS ACCOUNT ESCROW	4,742	1.35

(注) 出資比率は、自己株式を控除して算出し、小数第3位以下を切り捨てて表示しております。

## 所有者別株式分布状況(千株)



## 株価(高値・安値)および株式売買高の推移



# 株主メモ

**事業年度:** 毎年4月1日より翌年3月31日まで

**定時株主総会:** 6月中

**基準日:** 定時株主総会 3月31日  
期末配当金 3月31日  
中間配当金 9月30日

**株主名簿管理人:** 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
三井住友信託銀行株式会社

**同事務取扱場所:** 〒540-8639  
大阪市中央区北浜四丁目5番33号  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

**郵便物送付先:** 〒168-0063  
**(電話照会先)** 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
電話 0120-782-031(フリーダイヤル)  
取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店  
及び全国各支店で行っております。

**単元株式数:** 100株

**上場証券取引所:** 東京

**公告方法:** 電子公告

ただし、事故その他やむを得ない事由によつて電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。なお、電子公告は当社のホームページに掲載して行います。

## お知らせ

**住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申し出先について**  
株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。  
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
電話 0120-782-031(フリーダイヤル)

## 未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。



URL:<http://www.daicel.com>

ダイセルグループのホームページでは、最新の会社情報を随時更新しています。



ホームページ URL: <http://www.daicel.com>



見やすいユニバーサルデザイン  
フォントを採用しています。

本冊子は環境にやさしい植物油インキと、適切に管理された  
木材を原料としてつくられた[FSC®認証紙]を使用しています。